

# 論語教室だより

『寺子屋・こども論語塾』世話人会

第 33 号

2013 (平成25) 年11月16日 (土)

## 「ろん語じゅくに通って」

千歳市立千歳小学校3年 藤川 響

ぼくがろん語じゅくに通うきっかけとなったのは、じゅく生のまほちゃん、さわちゃんにさそってもらったからです。いろいろな話を聞いてとてもおもしろそうだなときょう味がわきました。

ぼくは、新田先生のあとにつづいて読むそ読がすきです。大きな声を出して読むと、気持ちがすっきり、さっぱりします。

同じじゅく生のひろえおばあちゃんに会えるのもうれしいです。

ろん語じゅくの日、帰ってからお父さんお母さん、ぼくで、その日のろん語じゅくの話をしています。

すきなしょうくは、六月十五日になった里仁第四・十七章「けんを見ては、ひとしからんことを思い、ふけんを見ては内に自らかえりみるなり」です。どうしてかという、すぐれた人を見たらそれに近づこうとど力するところ、つまらない人を見たら自分もそうではないかと反せいするところがカッコいいと思いました。ぼくもそうなりたいです。

※ 12月は金子大紀君をお願いします。

### 【ちょっといい話コーナー】

12月の論語塾は、三周年を記念して藤川響君のお母さんに東日本大震災時の体験を30分程度お話ししてもらうことにしました。どんなお話が聞けるのか楽しみです。

## お 知 ら せ

月日の経つのは早いもので、今年もあと一月半余りとなりました。「寺子屋・こども論語塾」も間もなく三周年を迎えます。塾生・保護者の皆さんには色々お忙しい中、感想を書いてもらいましたこと心より感謝申し上げます。十二月の論語塾に「三年の歩み」をご進呈したいと思っています。

今日は大事なお知らせをしますので宜しくお願い致します。

現在使用している「仮名論語」のテキストですか、来年(1月18日)の論語塾から今までやってきた内容を思い切って変えたいと思います。つまり、各章ごとに全ての素読をするのではなく、先生があらかじめ選んだ章句をやっていくようにしたいということです。

本来ならテキストを全て終えてからやるのが妥当とは思いますが、かなり長文の章句(先進第十一・二十六章、テキスト P.155~160)や相当難しい章句などがあって困惑しかねないからです。

また、塾生の身近な問題や社会に出てから少しでも役に立つ章句を学ぶことによって、やる気が一層出てくるのではないかと考えたからです。

各篇の講義を行う章句(素読をする章句)は、間違いのないように前もって「論語教室だより」でお知らせし、口頭でも確認したいと思っています。従って塾生の皆さんは、テキストの各篇ごとにあらかじめ番号を全てふっておいて下さい。そうしないと、先生が指摘する番号がどの章句にあたるのかわからないと思います。

熟慮したうえでの苦渋の選択ですのでご理解賜りますようお願い申し上げます。

保護者の方におかれましては、ご面倒でもお子さんに十分な説明をお願い致します。

以下に「公治長第五」で今後行う章句を記します。

9章 10章 12章 14章 22章 26章

以上ですが、26章は少し長い章句ですが、なかなか味のある内容です

なお、十二月は里仁第四の復習の素読を行います。一月は9章・10章・12章を行いますので素読の練習をしてきて下さい。二月は14章・22章・26章を行います。